

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書

平成 22 年 6 月
奈良先端科学技術大学院大学

目 次

I. 中期目標の達成状況

1	教育に関する目標の達成状況	1
2	研究に関する目標の達成状況	6
3	社会との連携、国際交流等に関する目標の達成状況	8

II.	「改善を要する点」についての改善状況	10
-----	------------------------------	----

I. 中期目標の達成状況

1 教育に関する目標の達成状況

中項目	1 教育の成果に関する目標	
-----	---------------	--

小項目番号	小項目 1	小項目	
			21 世紀における人類の豊かな生活と住みよい社会を実現するためには、多様な研究の推進と次代を担う人々への全人的な教育が必要である。本学は、大学院のみからなる利点を活かし、柔軟かつ多様性に富んだ教育体制のもとに、高い志をもって科学技術の進歩に挑戦する人材及び社会・経済を支える高度な科学技術の普及に貢献する人材を養成する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

中項目	2 教育内容等に関する目標	
-----	---------------	--

小項目番号	小項目 1	小項目	
			基本的なアドミッションポリシーとして、国内外を問わず、また大学での専攻にとらわれず、高い基礎学力をもった学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、各々の研究分野に対する強い興味と意欲をもった者の入学を積極的に進める。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1-2	ホームページによる国内外への最新情報の発信、大学案内冊子の整備、オープンキャンパスや学生募集説明会など定期的な大学説明会を推進する。		全国各地での学生募集説明会、オープンキャンパス、3月の進学セミナー月間（各研究科でスプリングセミナー、大学生インターンシップ、公開研究業績報告会などを集中実施）など、本学の特徴と魅力を受験生に直接伝える取組を活発に展開した。特に平成 20・21 年度には、進学セミナー月間に高校生・大学生を中心とする若い世代に科学が持つ魅力を体験してもらう「奈良先端大サイエンスフェスティバル」を新たに開催し、より幅広い層の受験生が本学を知る機会を増やした。
計画 1-3	ホームページなどの英語版を充実させ、外国人留学生への情報発信力を高める。		外国人留学生等を対象に、本学についてコンパクトかつ効果的に紹介する冊子として、新たに英語版大学リーフレットを作成するとともに、その内容を英語版ホームページに掲載し、海外に向け本学の高い研究力・教育力を積極的に情報発信した。また、留学生向けに英語による学生募集

		要項を作成した。
計画 1-5	全学教育委員会において、アドミッションポリシーに応じた学生の受け入れができていないかどうかを評価し、必要に応じて入学選抜方式を改善する。	面接試験を原則とする入学選抜を実施し、アドミッションポリシーに沿って適切な学生を受け入れた。また、平成 20 年度から、海外の学術交流協定校から優秀な学生を受け入れる留学生特別推薦選抜を開始するなど、多様な方法により入学選抜を実施した。高等専門学校からの推薦に基づく推薦選抜制度を整備し、多様なバックグラウンドを持つ学生の受け入れに努めた。

小項目番号	小項目 2	小項目	
			入学後、「情報科学」、「バイオサイエンス」及び「物質創成科学」の研究領域の基盤となる知識と最先端の技術を修得する講義に加え、人間として備えておくべき倫理観、広い視野、論理的な思考力、積極的な行動力、総合的な判断力、さらには豊かで実践的な言語表現力を備えた学生を育てるための教育を実施する。特に、博士後期課程の学生に対しては、世界水準の研究に取り組み、自立して遂行できる基盤となる教育を実施する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 2-7	学生の経歴、進路ならびに社会のニーズに対応できる多様な履修制度を整備する。		学生の進路目的に応じたコース制や習熟度別の授業クラスの編成等を行うとともに、少人数の演習、授業における対話・討論の重視、情報機器を活用した英語教育、短長期の企業インターシップ、授業アーカイブの充実等、教育を効果的に実施するための様々な工夫を行った。
計画 2-9	研究課題の発表能力と質疑応答能力を育成する体制を整備する。		研究計画を自ら立案して提案するために必要な構想力とプレゼンテーション能力育成を目的とする「仮想プロジェクト演習」、自身の研究に対し研究計画と必要予算を含めた研究提案する研究経営能力涵養のための「提案型演習科目」、課題発見能力、研究推進能力及び課題解決能力の開発を目的とした「特別物質科学講究」などの授業を通じて、問題発見・解決能力の育成を行った。また、学生の国際的な場での研究発表能力を育成することを目的に、英語のみにより研究発表と議論を行うサマーキャンプを 2 泊 3 日の日程で淡路夢舞台国際会議場において開催した。博士後期課程学生については、学位論文研究に加え、学位論文と異なるテーマに関する模擬研究提案演習等を通じて、問題発見・解決能力の育成を行った。
計画 2-12	毒物、劇物、放射線物質などの取扱い・安全教育などを徹底する。		「安全の手引き」について、携帯可能であり、内容を緊急時対応に特化させたポケット版を作成した。これについては英語版も作成し、留学生に配付した。また、最新の内容に改定した安全衛生に関するテキストを新入学生及び新規採用教職員に配付するとともに、留学生を含めた学生及び教職員が教育研究活動を実施するために必要な安全教育を実施した。
計画 2-13	履修要覧（シラバス）の内容をさらに充実させ、教員のガイダンスのもと、学生の履修科目選択の用に供する。オンライン版についてもさらに充実を図る。		引き続きシラバスに成績評価基準を明示するとともに、成績評価に関するガイドラインを教員及び学生に周知した。また、成績評価を終了した授業科目を学内ホームページで公表することで学生や教員に対して明示し、公正な成績評価の意識付けを行った。

中項目	3 教育の実施体制等に関する目標	
-----	------------------	--

小項目番号	小項目 1	小項目	
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 2	受講者が意欲的に調査し考察することが出来るような教材、指導法を工夫し、自己学習の方向付けをする。		電子図書館では、利用者 1 人 1 人の利用形態に合わせたページを構成できる「MyLibrary 機能」を導入し利便性を高めた。また、主要な電子ジャーナル・データベース及びオンライン英語学習システムに加え、授業アーカイブの自動収録化・高機能化を進めるとともに、新たに国際会議等での学生の英語プレゼンテーション能力を高める英語プレゼンテーション支援ツールを開発するなど、学生の自主的学習環境を向上させた。

小項目番号	小項目 2	小項目	
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 2 - 2	本学教員の専門分野外の先端的教育分野については、国内外の研究者等を非常勤講師として配置する。		大学院教育の国際化に向けて、外国人教員による各研究科における英語授業及び論文作成・プレゼンテーションの個別指導並びに定期的な英語能力テスト (TOEIC-IP テスト) に加え、海外の学術交流協定校の教員を招聘し、英語により先端分野の講義を行うなど、英語教育プログラムを充実した。

小項目番号	小項目 3	小項目	学生が時間と場所を選ばずに自主学習に積極的に利用できるように、情報関連設備と機器の充実を図る。特に、電子図書館機能と全学情報ネットワーク機能をより強化する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 3-2	場所と時間を選ばずに自主的に英語学習などができる支援体制を整備する。		<p>主要な電子ジャーナル・データベース及びオンライン英語学習システムに加え、授業アーカイブの自動収録化・高機能化を進めるとともに、新たに国際会議等での学生の英語プレゼンテーション能力を高める英語プレゼンテーション支援ツールを開発するなど、学生の自主的学習環境を向上させた。</p> <p>また授業アーカイブ事業については、情報科学研究科に加え、バイオサイエンス研究科および物質創成科学研究科にも展開し、全学の授業アーカイブコンテンツの充実を図った。</p>

小項目番号	小項目 4	小項目	国際会議での発表、海外研修などの支援制度を拡充することにより、国際的な場での教育機会を増やす。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

中項目	4 学生への支援に関する目標	
-----	----------------	--

小項目番号	小項目 1	小項目	
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 8	相談員・カウンセラー制度を充実させ、学生が持つ生活や研究教育上の悩みの解決を図る。		各研究科の学生なんでも相談員と保健管理センター、学生課専門員を構成員とした「学生なんでも相談連絡会」を定期的に開催し、それぞれ学生から相談を受けた内容や対応について情報交換を行い、問題意識の共有を図った。また、留学生に対しては、より密接な相談体制を確立し、日本での生活上における不安解消を図った。教員には、学生指導上のメンタル面を中心とした手引書を発行し、意識向上に努めた。さらに、新入学生全員を対象にメンタルヘルス及びフィジカルヘルスに関する講習会を実施するとともに、保健管理センターの医師、看護師及び外部カウンセラーによるきめ細かなカウンセリング体制を維持した。
計画 1 - 10	平成 16 年度から就職支援のためのセミナーや講演会を開催し、就職情報を提供する。		業種により就職活動開始時期が異なることを考慮し、全学共通時間枠を利用して同じ内容の就職セミナーを複数回行うなど全学を対象とした就職ガイダンスの内容改善を行うとともに、就職に関する図書の閲覧を開始し、全学及び各研究科の情報スペースを活用するよう学内広報の頻度を増やすなど就職支援の充実を図った。 物質創成科学研究科では、キャリアパス支援室を設置し、博士後期課程学生や博士研究員のためのセミナーやガイダンス、相談会等を実施した。

小項目番号	小項目 2	小項目	
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 2 - 2	学生の意見・要望・提言の収集体制を整備し、研究教育と学内運営に反映させる。		本学ホームページに学長通信というコラム欄を設け、定期的に、学長からのメッセージを掲載するとともに、学長への意見・提言欄を設け、学生・教職員をはじめ広く一般の人から意見を得られる仕組みを整備した。

2 研究に関する目標の達成状況

中項目	1 研究水準及び研究の成果等に関する目標		
-----	----------------------	--	--

小項目番号	小項目 1	小項目	国際的にリードする最先端科学技術の研究を目指すとともに、融合分野への積極的な取組により、新たな分野の開拓を図り、最先端の問題の探求とその解明を目指す。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 2	小項目	社会の要請の強い課題について、積極的に取り組み、次代の社会を創造する国際的水準の研究成果の創出を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

中項目	2 研究実施体制等の整備に関する目標		
-----	--------------------	--	--

小項目番号	小項目 1	小項目	学部を置かない大学院大学、多様な教員から構成されている各研究科の特色を生かし、戦略的な研究を行うために弾力的な運営体制を整備する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 8	研究室の設備やスペース、研究補助スタッフや研究資金を機動的かつ柔軟に配分するための体制を整備する。		施設検討委員会の下、全学的な施設の利用状況調査を行い、利用状況等の把握に努めるとともに、プロジェクトスペースについては公募を実施し、応募案件の研究内容を審査することにより施設の有効活用を推進した。 また、平成 21 年度には、プロジェクトスペースを対象としたスペースチャージ料制度を導入し、総合研究実験棟（仮称）の実験スペースを利用者に配分することを決定した。
計画 1 - 18	研究活動に必要な学術情報を提供する支援体制を充実させる。		電子図書館に利用者 1 人 1 人の利用形態に合わせたページを構成できる「MyLibrary 機能」を導入し、必要な学術情報が得られることができるよう利便性を高めた。

小項目番号	小項目 2	小項目	先端的研究実績のある若手研究者の登用を図り、新たな息吹を入れ、世界的な評価を得る最先端の実績を積み上げ、国際的な研究教育拠点を目指す。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 3	小項目	長期的研究課題、基礎的・萌芽的な研究テーマにも配慮しつつ研究組織による研究の質の向上及び改善のための各種の施策や取組などについて、その達成度等を適切に評価、研究の質の向上に資するためにフィードバックする体制を整備する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 3-2	評価会議の下で、自己点検評価及び外部評価を定期的実施する。		平成 20 年度に全学外部評価会議を開催し、各委員から本学の教育、研究及び管理運営等の活動について優れた点、改善点等の意見を伺った。この結果を外部評価報告書としてまとめ、本学ホームページ上で公表するとともに、第 2 期中期目標・計画の検討に活用した。 各研究科においても、平成 20 年度において取りまとめた教育及び研究の現況調査表等をもとに、研究科外部評価会議委員による外部評価を実施した。この結果を報告書としてまとめ、本学ウェブサイトで公表するとともに、各研究科長が評価結果を踏まえて今後の運営方針に活用した。
計画 3-3	教職員が研究情報を共有し、建設的なピアレビューができる体制を整備する。		教職員が研究情報を共有できるよう、新たに NAIST 未来テーマ探索懇話会を開催し、最先端の研究課題に関する話題提供と研究科を越えた学内の研究者の議論により研究を深化させた。

3 社会との連携、国際交流等に関する目標の達成状況

中項目	1 社会との連携、国際交流等に関する目標	
-----	----------------------	--

小項目番号	小項目 1	小項目	最先端の科学技術に対する社会の興味の高まりに積極的に対応し、地域社会から産業界、国際社会に渡る広範な人々に対する教育サービスを行い、大学としての社会貢献の充実・拡大を目指す。さらに産業界との連携・協力および技術移転などに対する支援を強化し、研究成果を社会に還元することに努める。また、一般市民や高校生・大学生などを対象に広く科学技術に関する啓蒙活動を積極的に推進する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 2	一般市民を対象とした公開講座を毎年 1 回実施する。		受講者の要望に応え受講上の便宜を図るため、平成 20 年度に公開講座の開催内容・方法等を見直し、参加者が前年と比べ 5 倍以上に増加した。
計画 1 - 3	学生及び学外の教員を対象とした体験入学を毎年 1 回、学生、企業人、一般市民を対象としたオープンキャンパスを毎年 2 回開催する。		平成 20・21 年度に、高校生・大学生を中心とする若い世代に科学が持つ魅力を体験してもらう「奈良先端大サイエンスフェスティバル」を新たに開催し、より幅広い層が本学を知る機会を増やした。

小項目番号	小項目 2	小項目	最先端の科学技術の研究教育を海外の教育・研究機関と遂行し、国際的に通用する人材と研究成果を社会に提供する文化学術研究の卓越的中心となる。日本人学生に対しては、国際的視野を持ち、国際的に活躍できる人材の養成に努める。また、アジア太平洋諸国をはじめとする海外からの留学生を積極的に受け入れ、先端科学技術を教育する国際的教育機関としての役割を担うことを目指す。また、国際シンポジウムなどの開催などにより得られた研究成果を広く国際社会に向けて発信する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 2 - 3	外国人講師による英会話、英語プレゼンテーションや英語論文作成法などの教育を充実させる。		外国人教員による各研究科における英語授業及び論文作成・プレゼンテーションの個別指導並びに定期的な英語能力テスト (TOEIC-IP テスト) に加え、海外の学術交流協定校の教員を招聘し、英語により先端分野の講義を行うなど、英語教育プログラムを充実した。また、海外の学術交流協定校における語学研修・研究研修を単位化するとともに学生の国際学会発表等を積極的に支援

		した。 さらに、学生の国際的な場での研究発表能力を育成することを目的に、英語のみにより研究発表と議論を行うサマーキャンプを開催した。
計画 2-5	大学独自の外国人留学生支援制度を構築する。	大学独自の経済支援として「奈良先端科学技術大学院大学外国人留学生特別支援制度」を設け、入学金支援、授業料全額免除、RA雇用による生活支援を開始するなど経済的支援を充実させた。また、平成 20 年度から、海外の学術交流協定校から優秀な学生を受け入れる留学生特別推薦選抜を開始した。
計画 2-9	研究教育内容を国内外へ公表するため、英語版の大学紹介冊子、ビデオは数年に一度、ホームページは随時更新して充実を図る。	外国人留学生等を対象に、本学についてコンパクトかつ効果的に紹介する冊子として、新たに英語版大学リーフレットを作成するとともに、その内容を英語版ホームページに掲載し、海外に向け本学の高い研究力・教育力を積極的に情報発信した。また、留学生向けに英語による学生募集要項を作成した。 英語版ホームページについては、海外ユーザーのニーズに合わせた独立したサイトとして再構築するための調査・検証を行った。

中項目	2 基本的人権の擁護に関する目標
-----	------------------

小項目番号	小項目 1	小項目	大学全体として人権尊重の基本原則を遵守し、その視点に立った施策を推進する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1-1	人権問題、セクシュアルハラスメント、アカデミックハラスメントなどの啓蒙活動を実施し、相談窓口を整備する。		NAIST ハラスメント防止ガイドラインを新入学生や新任教職員に配付するなど、啓発活動に努めるとともに、あらゆるハラスメント問題に一元的に対応するための体制の見直しを行った。また、ハラスメントに関する正しい知識や相談を受けた場合の適切な対処法を習得するため、ハラスメント相談員及び人事課担当職員を対象に「ハラスメント相談員セミナー」を実施したほか、ハラスメントを未然に防ぐ方策を広く教職員に啓発していく観点から、「ハラスメント防止に関する講習会」を実施した。

Ⅱ. 「改善を要する点」についての改善状況

改善を要する点	改善状況
【教育】 該当なし	該当なし
【研究】 該当なし	該当なし
【社会等】 該当なし	該当なし